

神居まちづくり推進協議会 会議録 令和 5 年度第 4 回

会議概要	
日時	令和 6 年 3 月 2 2 日(金曜日)午後 6 時 00 分から午後 7 時 00 分まで
場所	神居公民館大会議室
出席者	委員 1 2 名（正副会長以外は五十音順） 佐々木会長，小平副会長，青木委員，赤間委員，浅野委員，荒木関委員， 大河委員，永田委員，楡委員，松浦委員，三本委員，諸澤委員 （欠席者 大高委員，美浪委員） 事務局 神居支所 小松支所長，伊藤市民係主査 神居公民館 西村館長
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0 名
会議資料	次第
	資料 1 逃げ遅れゼロの地域づくりプロジェクト事業 実施報告書・収支 決算書
	資料 2 神居まちづくり推進プログラム改訂案

※本文では、「神居まちづくり推進協議会」を「まち協」と表記する。

1 開会

事務局から，欠席者の報告，配付資料の確認を行った。

3 協議事項

（1）神居地域のまちづくりの検討と推進について

ア 今年度の取組事業の進捗状況について

令和 5 年度の取組事業の進捗状況として，「逃げ遅れゼロの地域づくりプロジェクト事業」及び「神居地域支え合い事業」の実行委員から説明があった。

各委員等の主な発言概要は、次のとおり。

(委員)「逃げ遅れゼロの地域づくりプロジェクト事業」の実施報告書・収支決算書は、資料1のとおりである。2月1日に3回目の実行委員会を開催し、地区防災計画を策定した。地区防災計画は防災マップとともに地域に配布し、市のホームページにも掲載予定である。

(委員)「神居地域支え合い事業」では、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受け、地域食堂を4年振りに5回実施することができた。また、地域交流のための「居場所づくり」としてのサロン活動等にも100人以上の住民が参加された。

(会長)地域住民の居場所づくりとして、高齢者や障害者を含めたサロン事業や地域食堂の実施など献身的に事業を進めていただいたことに感謝申し上げます。

イ 神居まちづくり推進プログラムの改訂について

事務局から、第3回会議で配付し提出された「調査票」の意見集約した「神居まちづくり推進プログラム」改訂案について説明の後、意見交換を行い、改訂案が了承された。

各委員等の主な発言概要は、次のとおり。

(委員) 前回会議での市民生活部の説明だと、新年度からは地域運営組織での運営に変更となるのか。

(事務局) 新年度は現在の運営方法から変更はない。地域運営組織での運営については、今後検討を進めていきたいと考えている。

(委員) 事業については、6市民委員会を2、3の地域に分け、全員で実施してはどうか。

(委員) 地域には色々な課題があるが、まち協の会議では、話し合うテーマを明確にした上で進行すると、議論が円滑に進むのではないか。

(委員) 大きな災害が身近なものとして発生しており、公助として行政に頼ることが難しくなっている。まちづくりのベースとして、自分たちが防災に対してできること(自助)をテーマにしていきたい。

(委員) 地域運営組織については、地域活動への気持ちがある人が集える組織になると思う。まち協での活動は、福祉、住民活動、子どもの3つのテーマについて、お互いのノウハウを活かして協力して実施できればいいのではないか。

(委員) 異世代交流事業は、まち協の協力があってスムーズに運営することができた。

(委員) 神居の6地区全体が集まってできるイベントがあればと考えている。

(委員) 様々な立場でやりたいことはあると思うが、テーマを決めて事業に取り組むといいのではないか。

(委員) 今年度実施した防災事業で見えてきた課題を踏まえて個別の避難計画を作成するなど、事業を発展させて、実際の避難活動に活かしていけたらと考えている。

(委員) 「まちづくり」というと雲をつかむような話に感じる。一つの事業を完成させることが「まちづくり」なのか自問することがある。自分の住んでいる地域の小学校では4人が卒業し、在校生は新入生を入れて7人になる。地域の核になるものとして小学校を盛り上げていくことで「まちづくり」につなげていけるのかなと考えている。

(委員) まち協での事業を通じて、町内会などの理解者が増えて良かった。これからは、行政に頼ることが難しくなる時代であり、住民で力を合わせていかななくてはならない。神居地域は広く、地域事情も異なることから、自分たちでできる人材の確保が課題だと考える。

(委員) 「まちづくり」というより、もっと大きな視点で「ふるさとづくり」と捉えている。今後の神居地域を支えていく子供たちが「神居っていいな」と思える視点での活動が、まち協には必要ではないか。

(会長) 超少子高齢化、人口減少社会の中では、自助共助が非常に重要である。いつ起こるか分からない災害に備え、まち協全体として防災事業が必要となってくる。地域のニーズを把握するため、子供や若い人の意見も反映できる仕組みも必要。

今回「神居まちづくり推進プログラム」の改訂案を策定したが、課題も様々であることから、地域の特徴を活かしながら、掲載内容の検討については、新年度以降も継続的に意見の提出をお願いする。

(2) その他

事務局から、新年度の委員構成について説明があった。また、第1回会議の開催については5月中旬を予定しており、日程調整後、改めて各委員に案内することとした。

3 閉会